

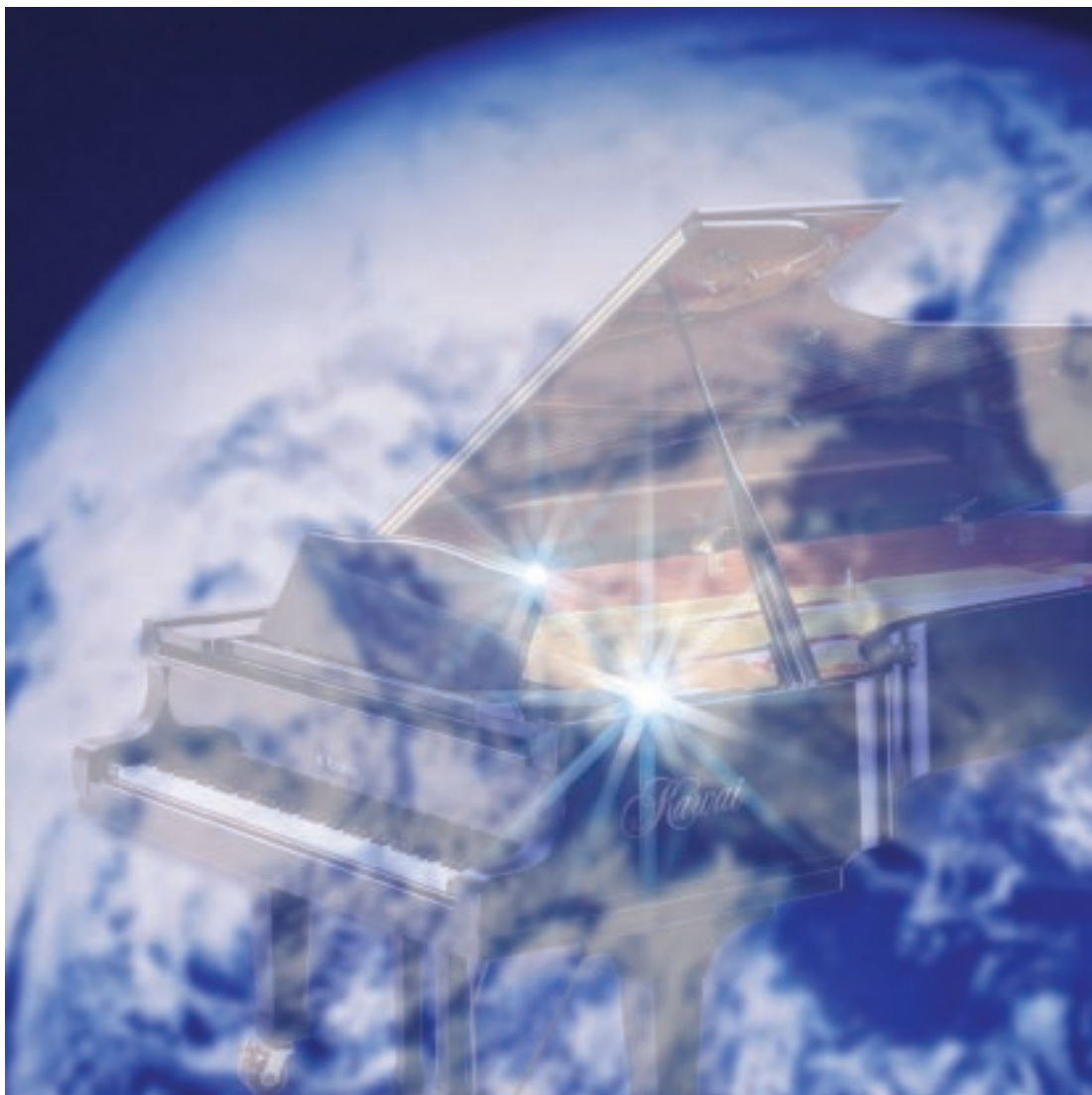
KAWAI



KAWAI

環境報告書2003

地球と人にやさしい企業をめざして



目 次

報告書について	1
2002年度活動の概要	2
会社概要	2

1 社長コミットメント

ご挨拶	3
経営の理念、行動指針	4
地球環境憲章	4

2 カワイの環境への取組み

地球と人にやさしい企業をめざして	5
推進組織と環境方針	5
カワイグループのあゆみ	6

3 環境経営

2002年度の環境目標と実績及び 次年度目標	7
環境会計	8
環境保全コスト	
環境保全効果	
環境マネジメントシステム	9
ISO14001認証取得及び運用状況	
環境監査	

4 製品・サービスにおける環境配慮

グリーン調達、LCA評価	10
--------------	----

5 環境パフォーマンス

事業活動に伴う環境影響収支	11
環境負荷低減活動	13
地球温暖化対策	
廃棄物削減と再資源化	
化学物質管理	
容器包装リサイクル	
環境法規制への取組み	
環境負荷サイト別一覧	15

6 社会性報告

社員との関係	16
お客様との関係	17
環境コミュニケーション	19
情報発信	
環境保護活動への参加	

7 カワイグループの 環境活動への第三者意見

第三者意見書	21
まとめ	22

報告書について

本報告書は以下の方針に従い作成しました。

環境活動主体の報告書となっていますが、企業の社会的責任を考慮し、一部社会性についても報告します。

多くのステークホルダーの皆様にお読みいただくことを念頭に以下のガイドライン等を参照しました。

環境省 『環境報告書ガイドライン(2000)』
G R I 『持続可能性報告のガイドライン(2002)』
環境省 『事業者の環境パフォーマンス指標
ガイドライン2002』

報告書対象期間

2002年度 (2002年4月～2003年3月)
一部2003年4月以降の最新情報を含みます。

報告書のカワイグループ対象範囲

	①	②	③	④	⑤
楽器製造事業					
(株)河合楽器製作所舞阪工場	○	○	○	○	○
(株)河合楽器製作所竜洋工場	○	○	○	○	○
メルヘン楽器(株)	○	○	○	○	
楽器部品製造事業					
(株)カワイウッド	○		○	○	○
(株)カワイハイパーウッド	○		○	○	○
(株)ケーシービー	○		○	○	○
金属事業					
カワイ精密金属(株)浜松工場	○		○	○	○
カワイ精密金属(株)松本工場	○		○	○	○
オフィス他					
(株)河合楽器製作所本社	○		○	○	
三木の里カントリークラブ	○	○	○	○	

① 環境経営	環境会計
②	ISO14001運用
③ 環境パフォーマンス	地球温暖化対策
④	廃棄物削減と再資源化
⑤	化学物質管理

集計方法の見直しなどにより既報データを一部修正し掲載の箇所があります。

報告書発行履歴と次回発行予定

環境報告書2001	当社初版	2001.12
環境報告書2002	パフォーマンス集	2002.11
環境報告書2003	今回発行分	
次回は2004年10月を予定しています		

2002年度活動の概要

2002年度の環境目標と達成度

項目	達成度	関連ページ
地球温暖化防止	😊	7,13
資源循環活用	😊	7,13
資源有効活用	😊	7,11
人材育成	😊	7
遵法	😊	7,14

達成
 おおむね達成
 あと1歩

環境保全コスト

投資額・・・・・・ 91,542千円
 費用・・・・・・ 248,630千円



環境保全効果

CO₂排出量削減・・・・ 1,936 ton-CO₂
 化学物質削減・・・・・・ 8 ton
 水使用量・・・・・・ 39 千m³
 廃棄物削減・・・・・・ 48 ton

経済効果

省エネ・・・・・・ 68,838千円
 節水・・・・・・ 310千円
 廃棄物処理費・・・・ △7,445千円

社会性報告のハイライト



16

カワイ倫理規範制定

役員・従業員全員が常に携行し、カワイグループの一員として、高い倫理観と常識をもって行動いたします。



17

カワイホームページにIRサイトオープン

個人投資家・機関投資家の方々に会社内容の理解を深めて頂くために、経営戦略や、財務内容を開示しています。
<http://www.kawai.co.jp/ir/>



17

Qアップ77運動

経営改善計画遂行の期として、この1年重要視されているピアノの品質を従業員全員が一丸となって取り組む品質向上のための活動です。



会社概要

社名 株式会社 河合楽器製作所
本社 静岡県浜松市寺島町200番地
創立 1927年（昭和2年）8月9日
代表者 代表取締役社長 河合弘隆
資本金 36億円(2003年3月末現在)

売上高		2000年度	2001年度	2002年度
単独	百万円	65,570	57,338	57,525
連結	百万円	84,818	76,548	73,554

従業員数		2000年度	2001年度	2002年度
単独	名	1,689	1,521	1,476
連結	名	3,497	2,959	2,894

当社グループの主な事業

楽器及び楽器関連事業

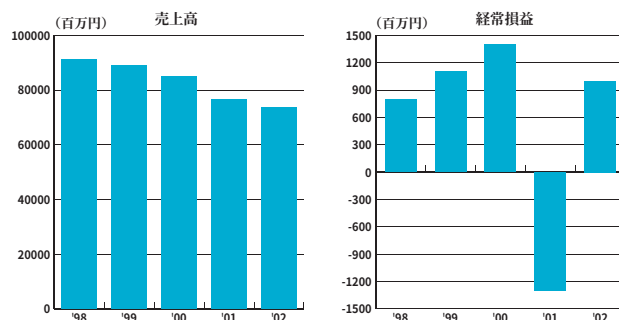
ピアノ等楽器、楽器関連商品の販売及び音楽教室
 楽器調律・修理の役務提供業務

金属製品事業

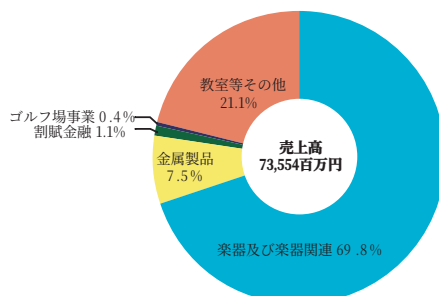
金属異形圧延加工品の製造及び販売

その他事業

体育教室、OA機器販売・修理及びソフトの販売
 防音室、環境清掃用品、スポーツ用品、玩具等



事業内容別売上高構成比



割賦金融事業は2002年7月に営業譲渡を完了しました。
 ゴルフ場事業は2003年8月に経営権を譲渡致しました。

1.社長コミットメント

ご挨拶

◎社会貢献

「快適で豊かな生活環境を創造します」

次頁にご案内のとおり、当社「経営の理念」の第1の柱です。これはカワイの事業目的を表わしたものでありまして、カワイの原点は音楽にあることを確認しつつ、さらにそこから生活に密着した、より幅広い事業活動分野を表現したものです。また同時に環境負荷低減活動を推進し、継続的改善を図り、「地球と人にやさしい企業をめざして」をグループスローガンに、かけがえのない地球環境を、次の世代にクリーンに引き継いでいくことが、当社すなわち文化創造企業の役割＝社会貢献と認識していることを意図しています。アグレッシブに行動し活動を推進することを約束します。

◎企業倫理

「お客様の満足を第一に商品・サービスを提供します」

常にお客様のニーズを敏感に把握して企画・設計・製造・販売・輸送・使用などの各ステージでお客様の満足度を最重点においた品質管理、環境配慮が重要な環境経営の時代となりました。

KAWA I ブランドに対する信頼は、ここまで多くのステークホルダーの皆様を支えられ、培われてきました。

私どもは、この信頼の維持と更なる向上、すなわち品質管理システムの向上とお客様に満足の得られる世界一のピアノづくりに、これからも励んでいきます。

また2002年10月、一人ひとりが企業社会人として社会的良識をもって行動するための基本となる「倫理規範」および「倫理行動基準」を明文化、制定致しました。カワイグループの企業倫理の遵守を第一に高い倫理観と常識を持って行動し、「社会からの信頼」に応えKAWA I ブランドに対する信頼を損なわないようコンプライアンスを推進します。

◎持続可能な社会へむけて

「新しい時代に向かって企業活動を推進します」

ブラジルのリオデジャネイロでの地球環境サミットから、はや10年。また2002年には南アフリカのヨハネスブルグで「持続可能な開発に関する世界サミット」が開催され持続可能な循環型社会の形成に向けた取組みが世界各国で始まりました。

河合楽器地球環境憲章も制定から10年目を迎えます。すばらしい地球環境を後世に伝えるためには、総合的かつ継続的な取組みが必要であると認識しています。世界の良き企業市民の社会的責任として、環境の保全に努めつつ、持続可能な社会形成のためカワイ地球環境憲章およびカワイ地球環境委員会環境方針を遵守します。

◎社会的責任

「社員を大切にし、明るい企業を目指します」

経営の理念の締めくくりは、闊達な企業風土を作り出すことを目的としています。すべての人々を尊重しのびのびと働きやすい環境を整えることが明るい企業を実現することになります。

今回の報告書から“社員との関係”など社会性の報告をも記載することと致しました。多くの皆様にカワイがいま取り組んでいる従業員との、そしてお客様とのかわりがいかなるものか、ご理解、ご支援賜ることを願っています。

また、「静岡エコステージ研究会」の皆様方にカワイグループの環境活動に対するご意見をいただきました。このはげましや、ご指摘を真摯に受け止め今後の改善につなげていきます。

社員との、そして多くのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが大切です。この報告書がコミュニケーションツールとして活用できるか否かが皆様との相互理解を深める鍵となっています。今後も情報開示を積極的に行います。そしてカワイの環境経営の質を高めるためにも、皆様の忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。



取締役社長 河合 弘 隆

経営の理念・行動指針

経営の基本的な考え方と方向性

カワイの原点は音楽 社会貢献

顧客指向性
企業論理

新しい時代への対応
持続可能社会

闊達な企業風土の創造
社会的責任

創業以来私たちはより良い楽器づくりと音楽文化への貢献を目的として企業活動を続けてきた。

社会や産業の構造が大きく変化する中で、私たちがより幅広く人々の生活文化に貢献してゆくため、また新時代にむけて新しいカワイを創生させるため、ここに新経営の理念を制定するものである。

経営の理念

創造性豊かな好感度企業を目指して

快適で豊かな生活環境を創造します
お客様の満足を第一に商品・サービスを提供します
新しい時代に向かって企業活動を推進します
社員を大切にし、明るい企業をめざします

行動指針

現状に満足せず、常に開拓者精神に燃えて

失敗を恐れずアグレッシブに行動しよう
常に向上心を持ち自己研鑽に励もう
豊かな創造性を発揮し、変化する時代に挑戦しよう
自然との共生を大切に、社会に役立つ活動を積極的に行おう
音楽文化の担い手として、自信と誇りを持って行動しよう

KAWAI
1996年 4月 1日制定

カワイグループ全体の
活動の根底をなすもの

積極果敢

自己の向上

挑戰

地球環境
保護活動

繼續

地球環境憲章



河合楽器はすばらしい地球環境を後世に伝えるためには、総合的かつ継続的な取り組みが必要であると認識しています。

世界の良き企業市民として環境の保全に努めつつ、人と地球にやさしい優れた商品を通じて社会からの信頼と共感の道を進むために「地球環境憲章」を1994年7月に制定致しました。



2.カワイの環境への取り組み

地球と人にやさしい企業をめざして

日本での環境問題に対する本格的な取り組みは、高度成長のつけによる「公害」への対応がスタートでした。カワイでも1975年に名前もそのものずばりの「公害課」を発足させ、公害対策基本法を遵守すべく、典型7公害の防止に努めた**公害防止の時代**でした。

その後地球サミットでの「リオ宣言」思想を盛り込んだ「環境基本法」や「廃棄物処理法」が制定され**環境保全の時代**を迎えました。当社においても企業活動全般にわたる環境重視の取り組みを企業の姿勢とし、その推進組織「地球環境委員会」の設置、行動指針である「カワイ地球環境憲章」の制定を同時期に行い、そして楽器業界で世界初のISO14001の取得、タイプⅢ環境ラベルの開示と業界内を先駆けしました。

21世紀、各種リサイクル法に裏打ちされた「循環型社会形成推進基本法」や「化学物質管理法」「省エネ法」「地球温暖化対策法」など各種法体系の整備は、世の中のニーズを色濃く反映しており、**環境経営の時代**へと変遷を遂げつつあります。

当社の地球環境委員会では環境目的・目標に**地球温暖化防止、資源循環活用、資源有効活用**などを掲げ活動しています。事業活動で発生する環境負荷であるCO₂排出量や廃棄物の削減、化学物質使用量低減などは企業の責務として認識し常に継続的改善を図ります。また製品・サービスやコミュニケーションにおける環境配慮にも充分留意し社会貢献度を高めてまいります。又、コンプライアンス推進のため2002年「カワイ倫理規範」「倫理行動基準」を制定致しました。

経営方針・理念とあわせ遵守し、「感動創造業」をモットーとするカワイは「環境経営」の実現に向け率先努力してまいります。

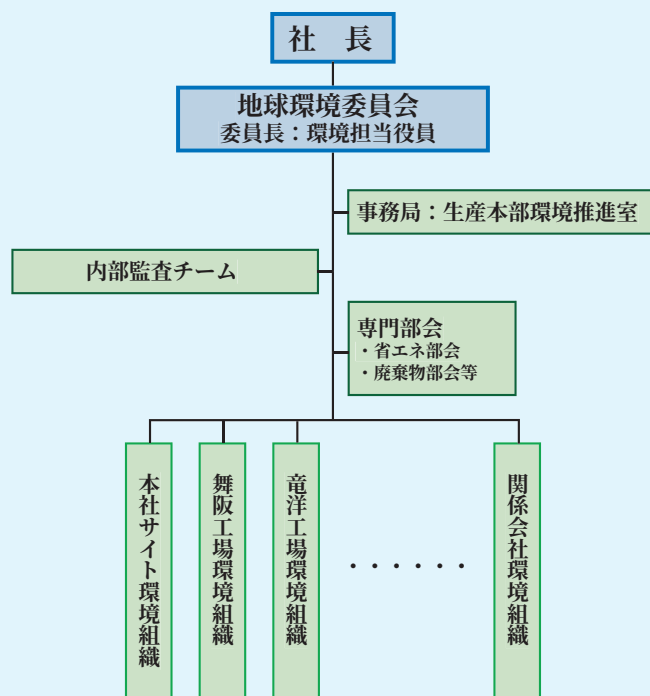
カワイ地球環境委員会 委員長
執行役員生産本部長

岡庭 巖



推進組織と環境方針

オールカワイの環境推進組織で、1994年に設置し活動中です。



カワイ地球環境憲章を受け、環境方針を制定しています。

地球環境委員会 環境方針

私たちは、楽器製造をはじめとする様々な事業の中で、環境への影響を配慮した活動を行い、地球環境の保全に向けた継続的な改善と汚染の予防に努めます。

1. 環境マネジメントシステムにより、環境負荷低減の目標を設定するとともに、社会の期待や大きさに応じた定期的な見直しを実施します。
 - ① 社会の期待と環境負荷に配慮した「製品、サービスの提供」「技術の開発」に努めます。
 - ② 開発、生産、流通、販売、サービスなどの各部門において「資源の有効利用」「省エネルギー」「廃棄物の削減」に努めます。
2. 環境に関連する法規制を遵守するとともに、その他の要求事項を考慮して自主的な基準を設け、環境管理レベルの向上に努めます。
3. 環境教育を通じ、全社員の意識向上を図るとともに、一人ひとりが広く社会に目を向け、日常業務や日常生活の中で自主的な貢献活動ができるよう啓蒙と支援を行います。
4. この環境方針を達成するため、環境管理担当役員を総括責任者とした環境管理の組織、運営制度を整備し、目標・計画・施策・責任を明確にして環境保全活動を展開します。

カワイ地球環境委員会 委員長
執行役員生産本部長

岡庭 巖

2002年4月1日

カワイグループのあゆみ

事業沿革

- 1927 河合小市 河合楽器研究所を創立。
ピアノの製造・販売を開始
- 1929 河合楽器製作所と改称
- 1935 合名会社河合楽器製作所と改組
- 1951 株式会社河合楽器製作所と改組
- 1955 河合小市 逝去 河合 滋 社長に就任
- 1955 旧版 経営の理念、私どもの主張 制定
- 1956 カワイ音楽教室を創設
- 1957 木材処理工場として新居工場完成
- 1961 ピアノ組立工場として舞阪工場完成
- 1963 アメリカにカワイアメリカコーポレーションを設立
- 1966 カワイ音楽教室中央講師養成所
(現 カワイ音楽学園) を創設
- 1967 カワイ体育教室を創設
- 1972 あさま山荘事件
- 1976 西ドイツにカワイドイツランド GmbH を設立
- 1979 西ドイツにカワイヨーロッパ GmbH を設立
- 1980 金属圧延加工のカワイ精密金属 (株) を設立
- 1980 グランドピアノ 専門工場の竜洋工場及び研究所完成
- 1985 梱包、配送業務の (株) カワイ流通サービスを設立
- 1988 アメリカにミディミュージックセンター Inc. を設立
- 1988 アメリカにカワイアメリカファクトリー Inc. を設立
- 1989 河合弘隆 社長に就任 河合 滋 会長に専任
- 1991 マレーシアにカワイ・アマニファクトリー SDN.BHD を設立
- 1996 新 経営の理念、行動指針 制定
- 1997 三木の里 C C オープン
- 1997 カワイ精密金属 (株) 浜松事業所 ISO9002 認証取得
- 2001 インドネシアに PT.カワイインドネシア を設立
- 2002 中国に河合貿易(上海)有限公司を設立
- 2002 カワイ倫理規範、倫理行動基準 制定

1920
第一の創業

1950

第

1960

二

の

1970

創

業

1980

1990

第

三

の

2000

創

業

環境活動

- 1975 生産技術部内に公害課設置 カワイの環境元年
- 1978 生産本部 環境管理課に改めグループ全体の管理



- 1994 地球環境憲章制定 シンボルマーク決まる
- 1994 全社的な推進組織の地球環境委員会発足
- 1996 環境推進室 に名称変更
- 1997 竜洋工場で ISO14001 認証取得 楽器業界で世界初
- 1997 舞阪工場「静岡県労働基準局長 優良賞」受賞
- 1998 舞阪工場で ISO14001 認証取得
- 1998 竜洋工場「エネルギー管理優良工場」として
中部通産産業局長表彰
- 1999 メルヘン楽器で ISO14001 認証取得
- 2000 環境会計導入
- 2001 三木の里 C C で ISO14001 認証取得
- 2001 タイプⅢ環境ラベル「製品環境宣言」JEMAI 開示
- 2001 舞阪工場「危険物優良事業所」表彰
- 2001 浜松環境フェア21へ出展
- 2001 東京ビッグサイト エコプロダクツ2001へ出展
- 2001 環境報告書2001 発行
- 2002 三木の里「エネルギー管理優良工場」として中部
通産産業局長表彰 ゴルフ場として初の快挙
- 2002 環境報告書2002 発行
- 2002 環境経営学会「環境経営格付」評価

公害防止の時代

環境保全の時代

環境経営の時代

2002年度の環境目標と次年度目標

長引く不況・景気低迷を受け、生産高は前年に比べ増加したものの基準年の2000年にはおびませんでした。そのため当初基準年に対する生産高原単位削減を目的に掲げ活動していた項目については期中より前年に対する削減率に目的を変更致しました。

2001年度の結果に基づき2002年度目標を上方修正した項目のうち資源循環活用項目は大幅な過達成となり、次年度は運用管理項目と致しました。しかしながら温暖化防止、資源活用項目については未達となり目標に対するアクションプランの甘さを露呈する結果となりました。次年度目標を見直し再挑戦致します。

他の目標値に対しては一部未達の項目もありますが、ほぼ満足できる結果となりました。改善と努力を今後も続け更に向上を目指して活動に取り組んでまいります。

詳細は報告書関連ページをご覧ください。

項 目	目 的 (目的年までに下記の項を達成する)	基準年	目的年	2002年度		評価	次年度 目標	報告書 関連頁
				目標	実績			
地球温暖化防止	1 電力量原単位を前年比2%減	2001	2002	-2%	-1.5%	😊	-2%	7
	電力量を絶対値比15%削減	2000	2002	-15%	-16%	😊	-16%	11
	2 エネルギーCO2排出量を30%削減	2000	2003	*27%	-14%	😞	-30%	11
	3 物流輸送に伴うCO2排出量を20%削減	2000	2003	-8%	-17%	😊	-20%	12
資源循環活用	1 廃棄物原単位を前年比3%減	2001	2002	-3%	-4%	😊	-3%	7
	廃棄物排出量を絶対値比10%削減	2000	2002	-10%	-5%	😞	-10%	11
	2 再資源化比率を60%増加	2000	2003	50%	51%	😊	60%	13
	3 一廃の再資源化を80%まで進める	2000	2003	*62%	96%	😊	管理	11
	4 廃プラの再資源化率を60%まで進める	2000	2003	*55%	89%	😊	管理	7
資源有効活用	1 水使用量を20%減	2000	2003	-18%	-9%	😞	-20%	11
	2 化学物質使用量を10%減	2000	2003	*25%	-4.6%	😞	*10%	11
人材育成環境教育	内部監査員ブラッシュアップ教育			100%	100%	😊	100%	
	階層別環境教育			100%	90%	😊	100%	7
	法定資格者の2倍育成			100%	100%	😊	100%	
遵法	環境法規制への対応			100%	100%	😊	100%	14
	罰金科料件数ゼロ件			0件	0件	😊	0件	8
地域貢献	地域イベントへの参加			100%	100%	😊	100%	20
コミュニケーション	環境工場見学の受け入れ(竜洋工場)			300人	215人	😊	300人	20
	近隣からの訴訟・苦情			0件	1件	😞	0件	14
環境配慮製品	LCA評価による環境配慮設計			100%	100%	😊	100%	
	環境影響物質の削減 鉛削減		2002	鍵盤鉛	縦型ピアノ	😊	鍵盤鉛	10
				無鉛半田	電子ピアノ	😊	無鉛半田	
グリーン調達	GPNガイドラインの活用		2002	100%	100%	😊	100%	
	カワイガイドラインの作成		2003	作成	着手	😊	作成	10

*印：修正
😊 達成 😊 おおむね達成 😞 あと1歩

指標	単位	2000	2001	2002	基準年比 [%]	前年比 [%]
電力量原単位**	kWh/100万円	760	844	831	109.3%	98.5%
廃棄物原単位	kg/100万円	29.7	37.2	35.7	120.2%	96.0%
一般廃棄物 削減率	kg	134,404	62,244	5,292	3.9%	8.5%
					96.1%	91.5%
再資源化率		25.1%	38.9%	50.8%		
廃プラリサイクル率		49.4%	82.6%	88.7%		
紙屑リサイクル率		28.4%	73.9%	97.7%		

**生産高原単位：生産高100万円に対する指標

環境教育の例

対象者	教育の内容
全従業員	自覚4項目等 環境全員教育(新入社員含む)
当該業務担当者	各種環境専門教育
内部環境監査員	内部環境監査員養成セミナー ブラッシュアップ(資質向上)教育
外注業者	グリーン調達等環境教育

環境会計

カワイでは環境経営の定量的指標のものさしとして、2000年度より環境会計に取り組んでいます。2002年度も昨年と同様の基準、対象範囲としています。（対象範囲の詳細は巻頭「報告書のカワイグループ対象範囲」を参照ください。）
しかしながら現状では環境保全コスト、効果の把握・集計にとどまり指標化、活用化は今一步の段階です。

参考書・・・環境省 環境会計ガイドライン2002年版など
対象サイト・・・カワイ本社はじめ国内9拠点
対象期間・・・2002年4月～2003年3月

環境保全コスト

[単位：千円]

分 類 (注1)		事 例	投資額 (注2)	費 用 (注3)
事業エリア内 コスト	公害防止コスト	悪臭等汚染防止	3,729	22,069
	地球環境保全コスト	環境整備	813	1,806
	資源循環コスト	廃棄物処理、省資源		98,637
上・下流コスト		ピアノリサイクル、物流改善		65,876
管理活動コスト		環境教育、監視測定		39,862
研究開発コスト		防音音響ルーム 他	87,000	11,713
社会活動コスト		地域貢献、コミュニケーション		8,667
環境損傷対応コスト		当年度ありませんでした		0
合 計			91,542	248,630

(注1) 環境省「環境会計ガイドライン」(2002年度版)における環境保全コストの分類

(注2) 環境保全を目的とした設備投資額。
グループの設備投資総額は1,478百万円で楽器及び楽器関連には635百万円でした。
研究開発費の総額は879百万円でその内環境への投資額は87百万円。

(注3) 費用には環境保全活動に費やした減価償却費、リース費、人件費等の維持運営費が含まれる。

2002年度の環境保全コストは投資92百万円、費用249百万円を投入しました。

研究開発への主な投資の内容

- 株式会社河合楽器製作所 《代替鍵盤鉛》の研究
- 株式会社カワイ音響システム 《ナサール》EZシリーズの開発
「人にやさしい安心設計」をコンセプトに組立移設が簡単な防音音響システムルーム
- 《ワンだあるーム、ワンだあハウス》の開発
「ペットと人間の共生」を目的として、楽器用の防音ルームと同等の防音性能を有し、メンテナンス性、耐久性、安全性に配慮



連絡先:(株)カワイ音響システム 0120-010-994

- カワイボックス株式会社 《生分解ゴミ袋》の開発

環境保全効果

効果についてはコストの投入により基準年の2000年より環境負荷がどれだけ改善されたかを捉えています。
CO₂排出量については省エネルギーや焼却廃棄物の削減等にて1,651 ton-CO₂、物流改善で285 ton-CO₂、計1,936 ton-CO₂の削減ができ、経済効果としては69百万円となりました。また化学物質は基準年比8 ton、用水39 千m³、廃棄物 48 ton を削減しました。

[単位：千円]

内 容	削減効果				経済効果	
	基準年	2002	削減量	単 位	内 容	金額
温暖化防止CO ₂ 排出量	13,922	11,986	1,936	ton-CO ₂	省エネ及び物流改善	68,838
化学物質取扱量	173	165	8	ton		
水使用量	454	415	39	千m ³	節水による削減	310
廃棄物処理量	990	942	48	ton	処分費用の増加	-7,445

環境マネジメントシステム

カワイの基本的な考え方

「世界一のピアノづくり」を進めるカワイは、「美しい音は美しい環境からしか生まれない」と信じています。20年前、竜洋工場の建設にあたり、敷地を緑地化し「森の中の緑の工房」をめざしたのも、こうした信念があったからなのです。かけがえない地球の環境問題を社員一人ひとりが身近なところから考える。その思想と想いは私たちのつくるピアノの音にきっと表われる。そんな確信のもとにカワイは全社をあげて環境保全に取り組んでいます。

カワイでは環境マネジメントシステムを環境経営の基本的なしくみと位置付け、楽器製造事業部門の早期取得をめざしました。97年にグランドピアノ製造の竜洋工場が楽器業界で世界初のISO14001を取得したのを初め、アップライトピアノの舞阪工場、電子楽器製造のメルヘン楽器と続けて取得し、継続的な環境パフォーマンスの改善に努めています。

ISO14001認証取得状況及び運用

	認証機関	1997	'98	'99	'00	'01	2002年		2003年	
							項目	評価	項目	受審予定 及び 評価
楽器製造事業										
(株)河合楽器製作所 竜洋工場	JACO	◎	○	○	②	○	○	「向上」	③	2003.08
(株)河合楽器製作所 舞阪工場	JACO		◎	○	○	②	○	「向上」	○	2003.07
メルヘン楽器(株)	JACO			◎	○	○	②	「適合」	○	2003.09
オフィス										
三木の里カントリークラブ	JACO					◎	○	「向上」 2002.03	○	「向上」

◎ 認証取得 ○ サーベイランス ② 2回目更新審査 ③ 3回目更新審査



外部審査状況（竜洋工場）



環境監査

事業所における環境マネジメントシステムの運用状況、目的・目標の達成状況、遵法等をチェックするため、認証機関による外部審査のほかにサイト内部監査を内部環境監査チームにて実施しています。

	項目	外部審査					内部監査				
		日時	評価	重	軽	観	日時	評価	重	軽	観
竜洋工場	2回目2年次	'02.09.09	向上	0	0	4	'02.07.24	向上	0	1	5
舞阪工場	2回目1年次	'02.08.02	向上	0	0	4	'02.12.17	向上	0	0	6
メルヘン楽器	2回目更新	'02.09.12	適合	0	0	2	'02.07.25	向上	0	1	3
三木の里CC	2年次	'03.03.27	向上	0	0	2	'03.01.22	向上	0	0	3

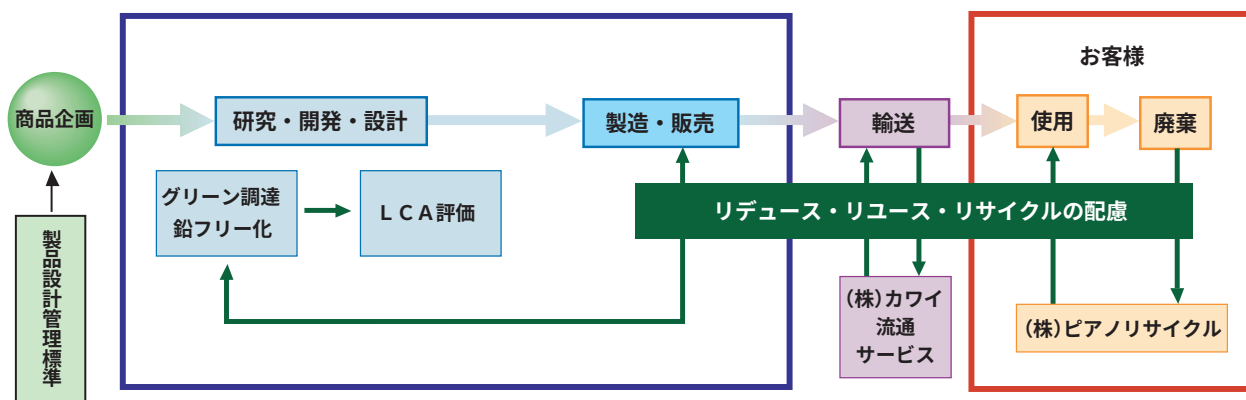
重：重大な不適合
軽：軽微な不適合
観：観察事項
(要求事項に不適合とは言えないが不十分な事項)

指摘事項に対し全て是正処置を完了し、かつ他部門への展開を図るなど継続的改善に努めています。

4.製品・サービスにおける環境配慮

グリーン調達・LCA評価

製品設計管理標準をガイドラインにグリーン調達、LCA手法等に基づく研究・開発・設計のステージ並びにリデュース・リユース・リサイクルの3Rを念頭においた製造・販売・輸送・使用・廃棄の各ステージにおいてもさまざまな環境配慮に取り組んでいます。



* グリーン調達・鉛フリー化

- ・原材料、部品から有害な化学物質を排除した材料の調達に各種ガイドラインを適用しています。
- ・欧州における廃電気電子機器（WEEE）指令ならびに有害物質使用規制（RoHS）指令への対応については電子楽器事業本部内にワーキンググループを発足し活動中です。

連絡先： 電子楽器事業本部 053-457-1277

* LCA評価（Life Cycle Assessment ライフサイクルアセスメント）

- ・製品やサービスについて原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでライフサイクル全体で環境に与える負荷を定量的に評価する手法

評価例 鍵盤鉛を廃止したアップライトピアノ K-シリーズ



鍵盤が沈みはじめると重みを各鍵盤ごとに調整するために、鍵盤に埋め込む錘には、従来鉛が使用されてきました。新しく発売したカワイピアノでは環境に配慮して鉛を廃止し、リサイクルが容易な鉄を採用しました。鉛に比べ固定方法の技術的難易度が高い鉄の使用は、カワイのすぐれた金属加工技術によって生まれた新たな形状（特許出願中）や、埋め込む位置の工夫など独自の新技术により可能になりました。さらに鉛より比重が軽い鉄を使用したにもかかわらず、金属量を減らすことにも成功しました。

連絡先： ピアノ事業本部技術部 053-596-2115

カワイ縦型ピアノ K-51 のLCAデータ

ライフサイクルステージ				単位	製造		使用	輸送	合計	環境設計効果	
入出力項目					素材	製品				旧モデルとの比較	
イン パ ク ト 評 価	消費 負荷	消費エネルギー		MJ	3,632	5,806	0	45	9,483	9,511	削減できました
		資源枯渇	エネルギー (原油)	kg	70.2	110		0.996	181	182	
			資源枯渇 (鉄鉱石) (鉛)	kg	877				877	991	大幅な削減達成 鉛使用の廃止達成
	環境 排出 負荷	大気へ	温暖化 (CO ₂)	kg	255	368		3	626	627	
			酸性化 (SO ₂)	kg	0.346	0.687		0.038	1.071	1.072	
		水域へ	富栄養化 (リン酸塩)	kg		0.004			0.004	0.004	

* リサイクル・リユース

- ・循環型事業として(株)ピアノリサイクルを98年に設置しお客様のニーズにこたえています。熟練の技術者の手で古いピアノをリサイクルしています。塗装から組立、調律までと見た目はもちろんメカニックの修理も施して、思い出のピアノ、使わなくなったピアノがまるで新品のように生まれ変わり、お客様にたいへん満足していただいています。

連絡先： (株)ピアノリサイクル 0120-319-648

5.環境パフォーマンス

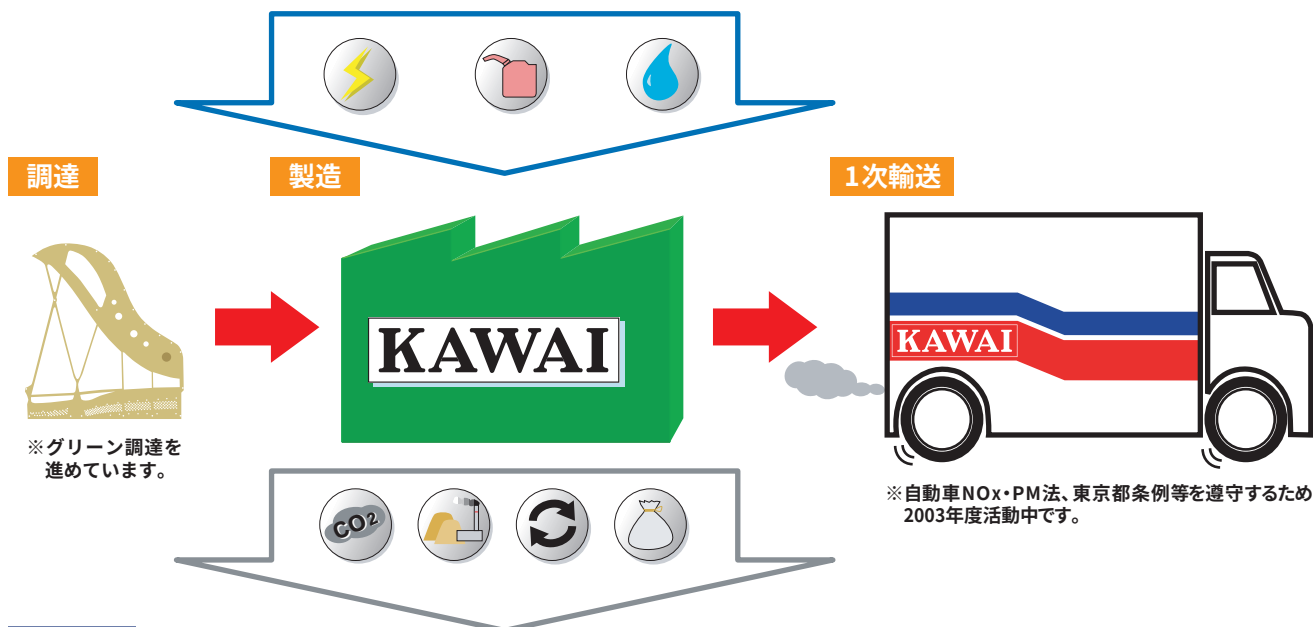
事業活動に伴う環境影響収支

INPUT

	単位	2000年度	2001年度	2002年度	削減率	
					基準年比	前年比
電気	GJ	234,898	182,860	197,599	15.9%	-8.1%
燃料	GJ	31,248	25,671	33,363	-6.8%	-30.0%
水	千m ³	454	392	415	8.5%	-5.9%
化学物質	ton	173	137	165	4.6%	-20.4%

GJ:ギガジュール (千MJ:メガジュール)

負数は増加を表しています



OUTPUT

	単位	2000年度	2001年度	2002年度	削減率	
					基準年比	前年比
CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	12,240	9,547	10,588	13.5%	-10.9%
化学物質	ton	58	51	62	-6.9%	-21.6%
廃棄物	ton	990	894	942	4.8%	-5.3%
産業廃棄物	ton	856	832	937	-9.5%	-12.6%
焼却・埋立	ton	608	484	458	24.7%	5.4%
リサイクル	ton	248	348	479	-93.1%	-37.6%
一般廃棄物	ton	134	62	5	96.3%	92.0%

※廃棄物についてはマニフェストに基づき最終処分場をチェックしています。



項目説明

INPUT

電気	工場、本社、などで使用する電力会社からの購入電力
燃料	A重油、LPG、灯油、軽油、ガソリン(車両燃料用含む)
水	井水、水道水、工業用水
化学物質	PRTR対象物質

OUTPUT

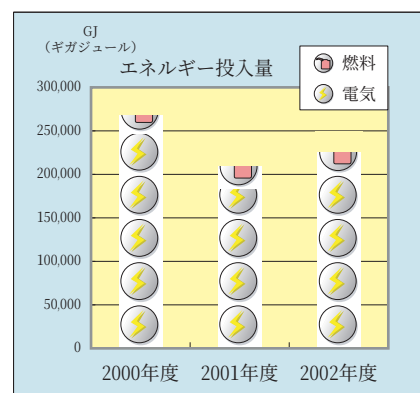
CO ₂ 排出量	電気、燃料、水の使用及び廃棄物の処理に伴って発生する二酸化炭素
廃棄物	産業廃棄物と一般廃棄物の総和
産業廃棄物	事業活動に伴って生じた廃棄物のうち廃掃法で定める廃棄物
焼却・埋立	燃え殻、ガラス・陶磁器など
リサイクル	金属屑、廃油、一廃のうち回収再利用品、サマールリサイクルを含む
一般廃棄物	事業活動に伴って生じた廃棄物のうち上記以外の廃棄物

輸 送

CO ₂ 排出量	物流輸送に伴う二酸化炭素排出量
1次輸送	工場から全国集積倉庫まで10トントラック使用、ピアノ混載
2次配送	集積倉庫から顧客先まで2トントラック、距離20km、ピアノ1台納品

INPUT

基準年の2000年に比べ電気15.9%、水は8.5%削減できたものの燃料は6.8%の増加となりました。これはダイオキシン対策のため、今まで木屑を燃料としていたボイラーや焼却炉の見直しに伴い燃料転換を余儀なくされたため

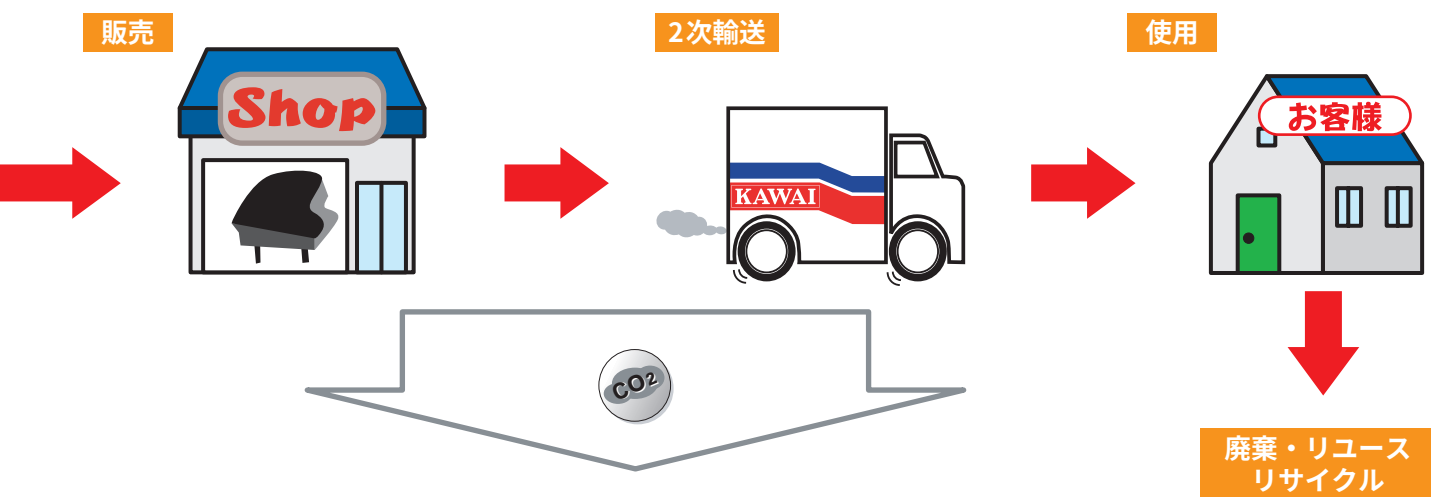


河合楽器グループは、企業活動が環境に及ぼす影響を認識しています。

事業が環境に与える負荷を数値で把握することが、環境活動の第1歩と考えます。

部品や材料を調達し、電気・燃料などのエネルギーや、水・化学物質を使用してお客さまに製品を提供しています。こうした活動に置ける環境影響量を算出し負荷の低減に努力していきます。

なお"輸送"は1次と2次の2段階で捉え"使用"においては製品のうちピアノが大部分を占めますので負荷の入出力は考慮対象外と致しました。



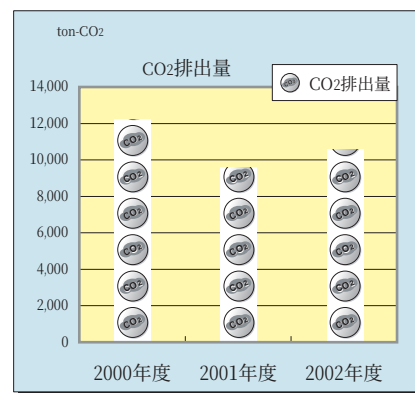
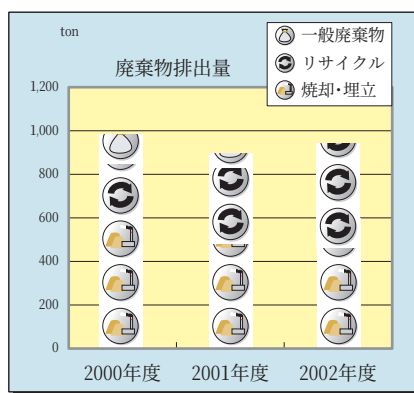
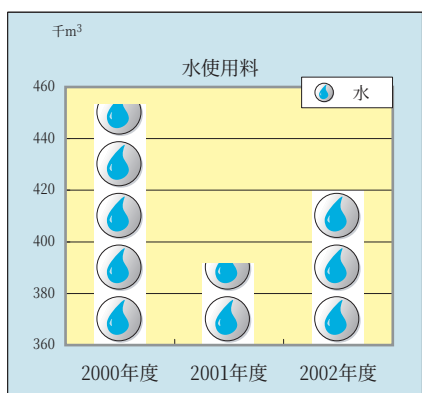
					削減率	
	単位	2000年度	2001年度	2002年度	基準年比	前年比
CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	1,682	1,576	1,398	16.9%	11.3%
1次輸送	万トンキロ	1,979	1,851	1,642	17.0%	11.3%
2次輸送	万トンキロ	88	83	74	15.9%	10.8%

OUTPUT

A重油使用量が増加したことなどが要因です。また多くの項目で前年値(2001年度)を上回ったことは生産量の拡大があったにせよ反省材料であり今後の活動の重要ポイントとして捉えています。

CO₂の排出量は10,588トン-CO₂で、基準年比13.5%削減できたものの前年比10.9%増となりました。電力量、A重油量の増

加を抑制できなかったことが原因と考えられます。次年度は生産再編によるインフラの整備などによる削減対策に取り組みます。



環境負荷低減活動

地球温暖化対策

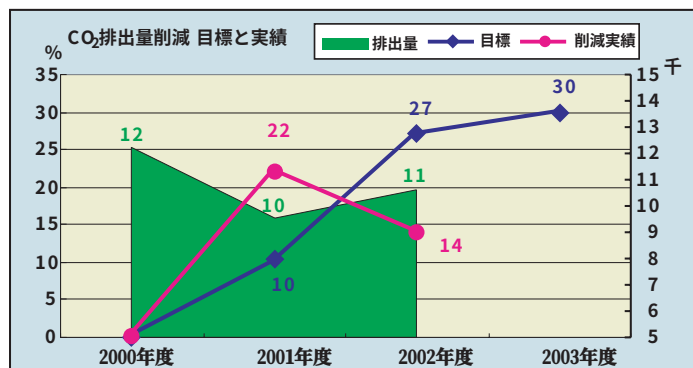
温暖化防止の基本的考え方

カワイでは地球温暖化対策を環境経営の重点項目と位置付け、工場や事務所のエネルギー使用によるCO₂の排出削減を目的・目標に掲げました。

2001年度は目標値10%の削減に対し22%と大幅に削減できた為、2002年度の目標を27%削減と上方修正して活動いたしましたが、結果至らず14%の削減に留まりました。目的年の2003年度は当初の目的である30%削減を目標値に各種施策を実施してまいります。

2003年度の主な施策

- ・サイトの統廃合によるインフラの整備
- ・ボイラーの効率運転



○詳細データは11頁を、又サイト別の詳細値は15頁を参照願います

物流輸送に伴うCO₂排出量

カワイではピアノ物流を(株)カワイ流通サービスが担っています。

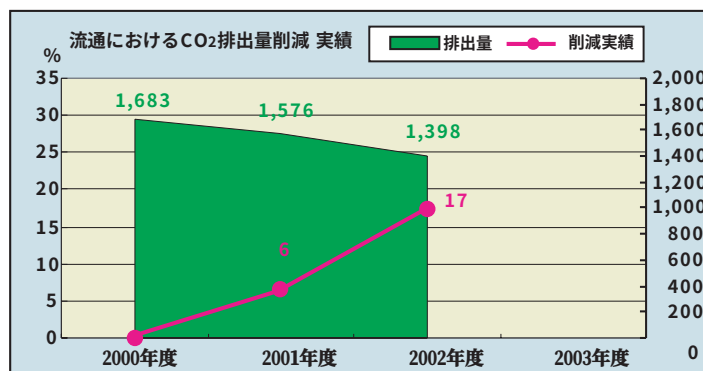
2002年度の国内輸送量は1,716万トンキロで基準年比16.9%の削減となりました。CO₂に換算しますと1,398 ton-CO₂の排出で284ton-CO₂の削減が図れました。

輸送手段は大型トラックが主体ですが、600kmを超える長距離輸送にはモーダルシフトによる列車コンテナや効果的なバン積みによる輸送(主に輸出品の国内搬送)も活用し負荷の低減を図っています。

また「物流ルートの見直し」「物流費の削減」等による輸送効率を高める施策を、今後も続けていきます。

2003年度の対応

- ・自動車NOx・PM法の遵守
- ・関東地域のディーゼル車の条例適合化



○詳細データは12頁を参照願います

廃棄物削減と再資源化

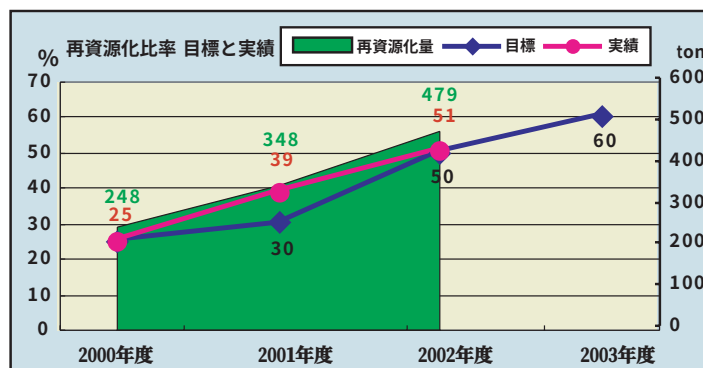
廃棄物削減と再資源化の基本的考え方

究極的にはゼロエミッションを目的に活動を推進していますが安易に焼却処理していた廃棄物の徹底した分別、再資源化を図ることをまず目標と定めています。

2002年度も活動は順調に推移し再資源化率は上方修正した目標値の50%をクリアすることができました。

再資源化量は479トンに達し、基準年の約2倍となっています。次年度は60%の再資源化を目指します。

廃棄物排出量全体では、やや増えたものの焼却埋立に回った廃棄物は基準年に比べ25%の削減となりました。次年度はこれらの廃棄物を再資源化する手立てを講じゼロエミッションに向かいます。



○詳細データは11頁を、又サイト別の詳細値は15頁を参照願います

化学物質管理

2002年度はPRTR対象物質のうち5種類を使用し取扱量は165tonでした。基準年に比べ4.3%の削減に留まりました。排出は29.4%でその大部分はトルエンによるものです。移動量は33.7%ですが再資源化されたものが25.4%あります。また製品等に消費されたものは36.9%でスチレンが占めています。

PRTR対象物質

[単位：ton]

第1種指定化学物質		取扱量		排出量				移動量		消費
No.		2000年度	2002年度	大気	水域	土壌	埋立	廃棄物	リサイクル	製品使用
63	キシレン	8.3	8.7	8.7						
145	ジクロロメタン	16.3	2.5	0.1					2.4	
177	スチレン	88.2	79.0	6.9				11.0		61.1
200	テトラクロロエチレン	32.4	41.7	2.1					39.6	
227	トルエン	27.6	33.5	30.8				2.7		
合計		172.8	165.4	48.6	0.0	0.0	0.0	13.7	42.0	61.1
				100.0%	29.4%	0.0%	0.0%	8.3%	25.4%	36.9%



いまカワイではトルエン、キシレンなどPRTR対象物質を含まない塗料への代替を進めています。また有機溶剤から水性塗料への変換、塗装ロボットによる効率改善など化学物質の排出を抑える努力を続けています。今後も有害性の少ない物質への代替、使用量の削減に努め環境負荷の低減を推進していきます。

*PRTR法

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
Pollutant Release and Transfer Register 環境負荷物質排出・移動登録

容器包装リサイクル法

容器包装リサイクル法の施行に伴い容器包装材の利用量を把握し再商品化の義務を果たしています。今年度は特にピアノ梱包における紙製包装を見直し大幅な削減が達成できました。また法にともなう「識別マーク」の表示も怠り無く実施致しました。

容器包装の種類		2000年度			2002年度		
		使用実績	回収量	再商品化	使用実績	回収量	再商品化
紙製容器	kg/年	14,352	263	1,687	13,503	237	973
紙製包装	kg/年	4,578	3,380	88	502	27	11
プラスチック製容器	kg/年	6,946	249	1,672	5,245	184	2,102
プラスチック製包装	kg/年	5,318	3,435	456	5,762	2,550	818
合計	kg/年	31,194	7,327	3,903	25,012	2,998	3,904



環境法規制への取組み

敷地境界線における悪臭測定の結果、一部の工場で自主基準値を超える測定点があり近隣の苦情を受けました。臭気排出口の位置を工場内部へ約80m移動するとともに高さも変更し、民家への影響を最小限に抑えることができました。今後も率先して環境維持に努め、苦情ゼロを進めます。

又、土壌汚染対策法を含め、種々の環境法規制の遵守により2002年度も事故・違反・訴訟・罰金科料等はありませんでした。各法令の遵守・届出及び報告を確実に実施していることを環境内部監査にて確認しています。

サイト別環境負荷一覧

2000年度 2001年度 2002年度 削減率
基準年比

竜洋工場 静岡県磐田郡竜洋町

●従業員数 236名 ●敷地面積 168,218m²
●事業内容 グランドピアノ製造

電気	GJ	26,176	23,171	25,390	3.0%
燃料	GJ	3,375	3,192	3,618	-7.2%
水	千m ³	32.8	35.7	42.5	-29.7%
CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	1,334.4	1,183.0	1,300.2	2.6%
廃棄物	ton	88.7	70.7	73.5	17.1%

舞阪工場 静岡県浜名郡舞阪町

●従業員数 241名 ●敷地面積 114,150m²
●事業内容 アップライトピアノ製造

電気	GJ	46,180	40,414	41,785	9.5%
燃料	GJ	10,985	9,740	11,636	-5.9%
水	千m ³	70.9	61.7	44.9	36.6%
CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	2,803.4	2,414.8	2,583.3	7.9%
廃棄物	ton	261.3	260.4	272.7	-4.4%

(株)カワイウッド 静岡県浜名郡新居町

●従業員数 95名 ●敷地面積 80,936m²
●事業内容 楽器木工部品製造

電気	GJ	41,402	35,499	32,633	21.2%
燃料	GJ	2,550	1,073	2,020	20.8%
水	千m ³	165	155	138	16.2%
CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	1,867.0	1,513.3	1,463.4	21.6%
廃棄物	ton	121.3	114.4	98.3	19.0%

(株)カワイハイパーウッド 静岡県浜松市

●従業員数 65名 ●敷地面積 15,103m²
●事業内容 自動車内装部品製造

電気	GJ	7,526	9,021	9,233	-22.7%
燃料	GJ	3,916	3,618	4,242	-8.3%
水	千m ³	6.24	6.79	9.62	-54.1%
CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	617.8	701.6	745.1	-20.6%
廃棄物	ton	80.0	143.9	151.1	-88.9%

(株)ケーシーピー 静岡県浜松市

●従業員数 16名 ●敷地面積 1,650m²
●事業内容 楽器金属部品製造

電気	GJ	8,556	6,195	5,872	31.4%
燃料	GJ	693	436	438	36.8%
水	千m ³	1.08	0.64	0.56	48.0%
CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	440.1	288.2	281.1	36.1%
廃棄物	ton	63.2	15.3	20.8	67.1%

2000年度 2001年度 2002年度 削減率
基準年比

メルヘン楽器株式会社 静岡県周智郡森町

●従業員数 70名 ●敷地面積 11,583m²
●事業内容 電子楽器製造

電気	GJ	3,185	3,082	3,205	-0.6%
燃料	GJ	217.5	205.7	219.3	-0.8%
水	千m ³	5.82	2.57	3.55	39.0%
CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	151.3	145.0	151.7	-0.3%
廃棄物	ton	52.6	69.0	84.4	-60.6%

三木の里C C 静岡県周智郡森町

●従業員数 48名 ●敷地面積 1,351,108m²
●事業内容 ゴルフ場

電気	GJ	9,298	8,546	8,260	11.2%
燃料	GJ	969.8	932.3	840.1	13.4%
水	千m ³	13.8	13.3	10.8	21.8%
CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	459.6	425.4	405.2	11.8%
廃棄物	ton	5.7	4.6	3.7	35.0%

K S K 浜松 静岡県浜松市

●従業員数 65名 ●敷地面積 26,817m²
●事業内容 金属部品製造

電気	GJ	31,783	20,867	24,749	22.1%
燃料	GJ	143.1	98.2	112.8	21.2%
水	千m ³	46.4	27.5	66.1	-42.4%
CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	1,390.5	925.4	1,056.1	24.0%
廃棄物	ton	198	123	122	38.1%

K S K 松本 長野県松本市

●従業員数 60名 ●敷地面積 14,612m²
●事業内容 金属部品製造

電気	GJ	50,961	26,385	36,878	27.6%
燃料	GJ	7,558	4,889	8,587	-13.6%
水	千m ³	100.4	77.8	87.4	13.0%
CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	2,585.0	1,407.7	2,084.8	19.4%
廃棄物	ton	108	48	71	34.3%

本社 静岡県浜松市

●本社従業員数 456名 ●敷地面積 6,784m²
●事業内容 事務、研究開発

電気	GJ	9,831	9,680	9,594	2.4%
燃料	GJ	1,894	1,487	1,649	12.9%
水	千m ³	11.6	11.4	11.3	2.6%
CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	606.2	562.2	542.2	10.6%
廃棄物	ton	12.3	45.2	44.2	-260.3%

6.社会性報告

社員との関係

「社会からの信頼に」応える企業を目指して コンプライアンスを推進

●倫理規範、倫理行動基準の制定

カワイでは、役員・従業員の一人ひとりが企業社会人として社会的良識をもって行動するための基本となる「倫理規範」及び「倫理行動基準」を2002年10月に制定致しました。

11月には社員全員に冊子の形で配布、常に携行し、カワイグループの一員として法令遵守を第一に、高い倫理観と常識を持って行動し「社会からの信頼」に応える企業を目指してコンプライアンスを推進していきます。

*コンプライアンス

一般的に法令遵守と訳され法律や規則などにそむかず、法律や規則をよく守ることを意味しています。また企業倫理・経営倫理の観点を含めて社会の秩序を乱す行動や社会から非難される行動をしないこと（エシックス）も含みます。



社員教育用冊子 倫理規範の手引き

●人事制度

当社は生産から販売まで幅広い業務を行っています。そこで働く社員一人一人が「やりがい」をもって、「能力」を発揮できるシステムを創り上げる事が「人事」の役割と考えています。

そのためには、社員の適正・能力・業務成果を、

- ・公正に評価し（評価制度：人事考課など）
- ・適正に処遇し（処遇制度：異動・給与など）
- ・的確に育成する（教育研修制度）

ことを基本においています。

そして、人事制度を個々の制度として捉えず「人事」の3つの機能を連動させる事により、人事サイクルとして円滑に機能する職場環境を目指しています。

そこで重要なことは、上司と部下のコミュニケーションであり、それを行う人事サイクルの中心となる制度が、目標管理制度と自己申告制度です。

●各種休暇制度

カワイでは、ゆとり創造の観点より、年次有給休暇の連続取得、リフレッシュ休暇の取得、健康増進のための特別休暇等の取得促進を図っています。

・リフレッシュ休暇

勤続5年ごとに「連続5日」の休暇が付与されます。そのうち1日は特別休暇扱いで、残りの日数は年次有給休暇または積立休暇を使用することができます。

・メモリアル休暇

社員の誕生日に付与される特別休暇

・HP休暇（HP:ヘルスプロモーション）

健康増進のために年1回付与される特別休暇。取得日は社員が任意に特定できます。

・積立休暇

時効消滅する年次有給休暇の2分の1が付与され、年々累積加算されます。（最高50日）ボランティア活動に参加する場合やスクーリング等の自己啓発をする場合、その他本人の傷病や家族の看護をする場合等に使用できます。

倫理規範、倫理行動基準の主な内容

カワイ倫理規範

この規範は、企業倫理に関し日常業務の遂行において遵守すべき事項を定めるものとする。

当社の役員および従業員は、当社の持つ社会的責任を自覚し、あらゆる企業活動の場において国内外を問わず、この規範を遵守しなければならない。

1. 法令、社内規定の遵守
2. 社会的良識に基づく行動の励行
3. 会社の信用、名誉の保持
4. 基本的人権の尊重
5. 利害関係者との公正、透明な関係の確立
6. トップダウンによる違反事例の解決と規範の周知

倫理行動基準

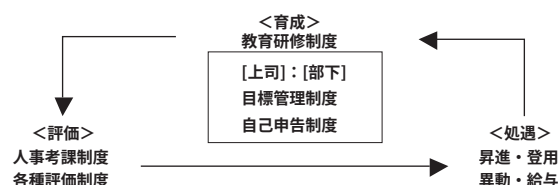
当社の役員及び従業員は「カワイ倫理規範」に基づいて定められた以下の行動基準を遵守し、日常業務を誠実に遂行する。

1. 総論、業務全般
 - 法令、規程違反行為の禁止
 - 正確な業務記録と迅速な報告
 - 私的濫用の禁止/人格の尊重/セクハラ
2. 一般社会との関係
 - 寄付/政治/反社会的行為/環境保全
3. 顧客、取引先、競争相手等との関係
 - 顧客満足度/自由競争・公正取引/取引方針
4. 株主・投資家との関係
 - 企業情報の発信/インサイダー取引の禁止
5. 会社財産・会社情報の管理
 - 会社財産の管理/適正使用/秘密情報/知的財産権

●目標管理制度・自己申告制度

社員の活力を最大限に発揮してもらうため、会社としては明確な方針を示し全員のベクトルを合わせることが必要です。目標管理制度とは半年ごとに仕事に関する話し合いを行い、具体的な目標をお互い確認し合う場です。

また、毎年、自己申告制度を行っています。これは現在担当している仕事に対する社員の希望や勤務地などについて話し合い、一人一人の今後のキャリア開発に役立てる制度です。



●労働安全衛生

カワイでは、「安全で快適な職場環境の形成」と「健康保持増進活動の推進」が原点であると考え、以下のような安全衛生活動に取り組んでいます。

1. 安全で快適な職場環境の形成

- (1)労働災害発生時に必ず労使で現認し、協力して再発防止対策に取り組んでいます。
- (2)ヒヤリハットを抽出し、KYT(危険予知訓練)等を通じて危険を先取りし、危険ゼロを目指します。
- (3)労使で職場を巡視することにより、不安全・不衛生状態をなくします。
- (4)メンタルヘルスケアの推進
 - ①管理者へのメンタルヘルス研修
 - ②産業医・保健師による個別相談

2. 健康保持増進活動の推進

健康保険組合と健康増進機関である体育事業部が連携し、健康保持増進活動の推進に取り組んでいます。

- (1)健康管理・健康づくりに関する社員への情報提供
- (2)定期健康診断・生活習慣病検診後のフォローアップ
- (3)毎月各事業所で健康相談を実施

お客様との関係

お客様の満足を第一に商品・サービスを提供します

◎品質に対する取組

“Qアップ77”運動（品質向上運動） 展開中

「お客様の満足を第1に商品・サービスを提供します」これは当社経営理念の一節です。また当社の今期77期経営方針の中で「社会環境の厳しい中で楽器事業において重要とされるのは、カワイブランドに対する信用の維持と更なる向上を果すことが必要であり、品質管理の仕組みとピアノづくりの仕組みを確立することが重要」と提示されました。経営改善計画遂行の期として、この1年重要視されているピアノの品質を従業員全員が一丸となって取り組む品質向上のための活動「Qアップ77」を展開中です。

「お客様の満足を」得るために



と製造に関わるすべての人が「次工程はお客様」の意識の元、生産にはげみ、お客様が「買う気になる商品」「買っていただける商品」づくりに邁進しています。



お客様との相談システム“カワイQSS”

お客様との相談窓口をカワイQSS（Quick Service Station）と名づけ、誠実な対応と迅速な処理を行うべく、1971年(昭和46年)2月よりその組織を発足させ活動しています。

カワイQSSの組織はその本部を営業本部におき、支部を全国支社に配置してカワイのお客様相談窓口としての役割を果たしています。

お客様からの苦情対応、相談の受け付け、関係行政機関・各種消費者団体との対応や、PL法など消費者関連法規に對し怠ることの無いように活動しています。



カワイQSS 9か条 (運営の基本理念)		
1 迅速なる処理	4 確実な回答	7 信頼される言動
2 誠実なる対応	5 充分なる説明	8 責任ある態度
3 約束の厳守	6 連絡の徹底	9 処理完了の確認

連絡先: 営業本部QSS事務局 TEL: 053-457-1311

お客様のピアノの主治医“調律師”の技術集団

株式会社河合楽器サービスセンター

「ピアノは生きています」というと驚かれるかもしれませんが、ピアノには木材、羊毛、皮革など多くの天然素材が使われています。これらの材料はとても敏感で、温度や湿度の影響を受けてしまうのです。また、ピアノの大部分を占める天然木材は常に呼吸をしている、まさに“生命体”なのです。そしてピアノほどデリケートなメカニズムを持つ楽器は他にないとまで言われています。そこで私たちが健康管理をするように、ピアノにも“調律”という名のメディカルチェックが必要なのです。

全国にネットワークを持つ「河合楽器サービスセンター」は世界で唯一の調律専門会社で、ピアノづくりに長い歴史と実績を持つカワイの直営です。また調律師たちは、「カワイピアノテクニカルセンター」での厳しい訓練を受けた技術者で、ピアノの主治医として、ピアノを常にベストコンディションに保つためのケアをしています。



連絡先: (株)河合楽器サービスセンター 053-457-1331

◎カワイホームページにIRサイトオープン

インターネットのホームページにIRサイトをオープンしました。“IR”とは“Investor Relations”の略で「投資家向け広報活動」と訳されます。ステークホルダーのうち投資の対象として会社を見る人（個人投資家や機関投資家）の皆様へ、会社内容の理解を深めてもらうために経営戦略や財務内容を開示し、適切な企業価値へと結び付ける活動のことを言います。インターネットの普及により広く情報の発信や検索ができるようになった今、多くの企業がこのIR活動の手段としてホームページを活用しています。

カワイのIRサイトは、財務データのダイジェストをトレンドでまとめた「財務データ」、四半期ごとの開示資料などをすべて見られる「決算情報」などを当面主な内容としていますが、今後さらにその充実を図ります。

アドレスは <http://www.kawai.jp/ir/>



新しい時代に向かって企業活動を推進します

◎社会貢献活動

さらに広く、より深く音楽文化を醸成するために、カワイは楽器メーカーとして優れたハードづくりを追求するとともに音楽文化の育成やレベルアップといったソフトに関する活動を、長年続けています。“音楽から生まれる感動をさらに多くの人へ、より深く伝えたい。”カワイの熱き想いは、さまざまな音楽シーンで着実に実を結んでいます。

文化・芸術

●カワイ音楽振興会

日本の音楽文化の普及と向上を目指して1963年に設立。海外の著名な演奏家、教育指導者を数多く招聘し、リサイタルを開催するほか、公開講座、個人レッスン、講演会など多彩な催しを企画実施しています。

●カワイコンサート

日本中のより多くの方々により良い生の音楽を。このポリシーのもと、1971年からスタートした「カワイコンサート」は、すでに全国各地で2,000回以上におよぶ公演を実施。国際的なピアニストから新進気鋭の若手まで多彩な演奏家を招き、音楽のすばらしさを広めています。また、新人にとっては一流ピアニストへの登竜門として絶好の舞台となっています。

●日本ショパン協会への支援

ポーランドのショパン協会との交流のもとに設立された日本ショパン協会の活動を多角的に支援。音楽交流、ショパン国際ピアノコンクールへの審査員派遣、参加者オーディションなどの活動を行っています。また、年間もっとも優れたショパン作品の演奏をしたピアニストに対し、日本ショパン協会賞を贈っています。

●日本フーゴー・ヴォルフ協会への支援

歌曲の作曲家フーゴー・ヴォルフ。彼の作品をより多くの音楽ファンに知ってもらうために設立された日本フーゴー・ヴォルフ協会をバックアップ。例会、研究会活動のほか、ヴォルフに関する資料・楽譜の収集、公開などに積極的に取り組んでいます。

●東京吹奏楽団への支援

音楽大学の管楽器科卒業生によって結成された東京吹奏楽団は、ステージでの演奏活動を中心とする唯一のシンフォニック・バンド。全国各地の学校、自治体などの吹奏楽の演奏技術の向上にも指導的役割を果たしています。

カワイは名古屋フィルハーモニー交響楽団、日本シマノフスキー協会への支援活動も長年続けています。



教育・教室

●カワイ音楽教室

1956年発足。全国各地に8,200余の教室があり、34万人を超える生徒が通っています。年齢やレベルに合わせて多彩なコースが設定され、音楽の基礎能力を身に付ける導入過程からプロをめざす専門過程まで系統的なレッスンが受けられます。

●カワイこども英語教室

カワイが開発したIMA(Imagination, Music, Action)方式のカリキュラムに沿って、豊かな人間性をもつ講師とともに歌やゲームを楽しみながら生きた英語を身につけます。

●カワイ絵画造形教室

画一的指導ではなく個人差やプロセスを重視しながら、子どもたちの独創性と創造力を豊かに育んでいます。紙や粘土、カワイ独自のピアノの木片など豊富な素材を使い、自由に創作活動に取り組むことができます。

●カワイ体育教室

1967年の開設以来、「心とからだのハーモニー」をテーマに多様な体育教室を実践。2さいコース、幼児・児童コース、スポーツコース、および生涯体育の理念のもと健康づくりを支援する健康コースを設置しています。

●カワイミュージックスクール

平均寿命の伸張に伴い、中高年の人々の生涯学習や余暇活動に対する関心が年々高まっています。カワイでは、こうした社会ニーズに対応し、ピアノ、フルート、バイオリン、大正琴、日本唱歌など、40種以上に及ぶ大人のための音楽教室を運営しています。いずれも自分の好きな曲をその人のレベルに合った内容で受講でき、またレッスンの回数や形式が選択できるなど、個性に合ったレッスンが受けられることから、多くの受講者を集めています。

●カワイ音楽学園

カワイ音楽教室講師として即戦力となる専門的な技術を習得し、さらには音楽教育者としての総合的資質を高めていく教育機関です。1年間集中かつ徹底的に総合音楽学習を行い、卒業後はカワイ音楽教室講師としての活躍の場が提供されます。様々な楽器を通して音楽的な感性を養い、プロフェッショナルな音楽指導者として必要な技術や知識を習得します。

●カワイピアノテクニカルセンター

1961年開校。充実した設備を活用したこまやかな個人指導を通じて優秀な調律技術者を数多く輩出しています。海外研修制度も整いコンサートチューナーとしての道も拓けています。



環境コミュニケーション

情報発信

コミュニケーションの推進
ステークホルダーの皆様には、カワイの環境への取り組みの内容や環境パフォーマンスの成果、環境への配慮などを広く知っていただくため、環境報告書の定期的発行やインターネットによる情報の開示、地域住民やNPO、NGOの方々とより良い信頼関係の確保、双方のコミュニケーションの拡大に努めます。

※ステークホルダー Stakeholder
企業の利害関係者。消費者/取引先や社員や株主だけでなく行政、研究機関、金融機関、地域住民国際社会までも含めてステークホルダーと考えます。



環境報告書の発行

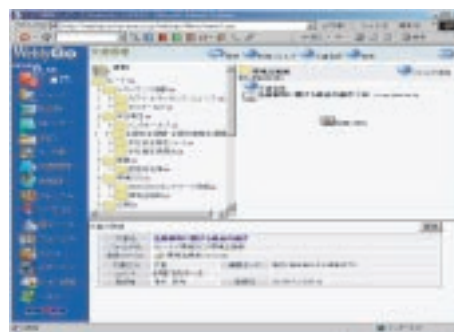
環境報告書2001

環境報告書2002



カワイでは、2001年より毎年、環境報告書を発行するとともにホームページと連動し当社の環境経営の考え方や環境への取組み状況を幅広いステークホルダーの皆様にご理解いただけるよう図っています。

社内環境情報データベース



本社環境推進部門をはじめ、各工場サイト、関係会社で保有する環境情報を、従業員全員がアクセスできる社内イントラネットである「社内情報ネットワークWeblyGo」にて共有化しています。これにより全員が最新の環境法規制の動き、環境負荷低減活動の状況など様々な情報を得ることができます。

タイプⅢ環境ラベルの開示



カワイでは製品環境情報の開示の手段として国際的な環境ラベル表示方式「タイプⅢ型」を2001年5月社団法人産業環境管理協会が定めたJEMAIプログラムに沿った情報で開示しました。

ホームページでの開示

当社ホームページ【会社概要】から「環境への取組み」で地球環境憲章、タイプⅢ環境ラベルの開示、環境報告書をご覧ください。
またISO認証取得ニュースリリースも別枠にて開示しています。

<http://www.kawai.co.jp/company/index.html>

環境経営格付を受けました

環境経営学会、環境格付け機構による平成14年度の環境経営格付けにより「グリーン・トップランナー」の72社の中の一社に選出され、評価されました。

環境保全項目についてはそれなりの評価を得ましたが、環境経営信頼性、社会・文化・倫理の項目においては、明文化の遅れなどもあり今一步の評価となりました。

これらの評価を励みにし、かつ反省し今後の活動に反映させていきます。



格付例

環境保護活動への参加

舞阪工場：「小さな親切」運動静岡県本部の「クリーン作戦」に参加

河合楽器は「小さな親切」運動に協賛し会員として活動しています。
舞阪工場では“地域の景観・環境保全に貢献しよう”というISO環境方針にも即した活動として旧東海道松並木のクリーン作戦に参加しました。
今回は安全運転管理推進事業所としての活動も兼ね、カーブミラーの清掃も併せて実施しました。

*旧東海道松並木(舞阪町指定文化財)

江戸幕府が1604(慶長9)年に街道の両側に松や杉を植えさせたことに始まる。
1712年には道の両側の堤に1,420本の松が植えられていた。現在700mにわたって、大小340本の松並木が続いている。



竜洋工場：磐田地区労働福祉協議会の海岸清掃奉仕作業に参加

上記協議会の竜洋支部は掛塚灯台跡の駒場海岸で清掃奉仕作業を行いました。夏本番を迎える毎年6月の恒例行事で竜洋工場メンバーも多数参加し、缶やペットボトル、プラスチック容器などをトラック1台分ほど拾い集めました。
特に花火のごみが多かったと参加者は語りました。

参加総数 150名



環境に関する工場見学

社団法人中部産業連盟主催による「環境マネジメント現場見学会」や消費者グループ、行政機関、学校の環境教育など工場では多くの工場見学者を受け入れております。2002年度の見学者総数は4,113名を数えその内環境に特化した見学は9団体 215名でした。



日付	団 体 名	人数
2002.7.17	(社)中部産業連盟	18
2002.9.11	磐田市 一市三町消費者グループ	64
2002.11.8	福島県須賀川労働基準協会	20
2002.11.8	東京都社会保険労務士会武蔵野支部	24
2002.11.8	田村町会東部ブロック会	17
2003.2.12	静岡県西部教育事務所	20
2003.2.25	陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地施設隊	12
2003.3.10	静岡県中遠地域産業振興協議会	20
2003.3.24	岡崎商工会議所 機械金属部会	20
計	9団体	215

7.カワイグループの環境活動への第三者意見

第三者意見書

第三者意見書

株式会社河合楽器製作所
取締役社長 河合弘隆 殿

平成15年10月14日

静岡エコステージ研究会
代表理事

加藤 壽男 

静岡エコステージ研究会は、株式会社河合楽器製作所（以下、「会社」という。）の依頼に基づき、会社の環境報告書2003作成の方針および報告書全般にわたる詳細な説明と質疑並びに必要な根拠資料をもとに独立した第三者の立場で意見を述べることを目的に当会の理事7名出席のもと評価を行いました。

評価できる点

会社の環境への取組において評価できる点を列記すると、

1. 時代の環境課題に対して常に業界初の前向きな挑戦を続けられ、その成果に対し高く評価をいたします。
環境マネジメントシステムとしての「ISO14001認証取得」
製品品質の国際的表示方式である「タイプⅢ環境ラベル」
の環境情報開示
DFE環境配慮設計・製造「鉛フリーピアノの製品化」
環境経営格付けに参画、グリーン・トップランナー
として選出評価 など
2. 今回の報告書2003は、新しい時代の企業行動としてステークホルダーとのコミュニケーションなど社会的責任に踏み込んだことを、評価いたします。



加藤 壽男 氏

静岡エコステージ研究会 代表理事
エコデザイン学会連合 全国組織委員

今後検討を求めたい点

報告書の開示において今後検討を求めたい点を述べると

1. 環境活動は、計画と実績、その基準と比較評価が明らかであることが必要です。環境活動項目毎の目標と達成度、その自己評価の表示について、判別し易い方法を検討下さい。
2. 環境パフォーマンスにおける材料の調達から廃棄、リサイクルに至るまでの間、外注・販売店等に関する環境管理活動の現状把握及び指導、教育管理等の掌握を検討下さい。
3. 事業活動に伴う環境影響収支について、グリーン調達、輸送に関する自動車NOx・PM法対策、廃棄物の最終処分地の確認措置を検討下さい。
4. 土壌汚染（2001年は確認された）、大気汚染、悪臭防止の遵守状況について、引き続き、ご検討下さい。
5. 社会性報告の社員、地域との関係について、環境教育、東海地域の特性としての地震、津波対策として教育訓練をどのように実施したのか、検討して下さい。

静岡エコステージ研究会

地球環境が深刻化する現状において、持続可能社会における地域の循環型社会構築を目的とし、環境経営評価・支援システム「エコステージ」の静岡県内地域での普及をめざして、平成15年5月22日 地域企業、団体の有志により設立。当研究会は企業、ISO審査登録機関、環境コンサル、経営・技術コンサル、消費者グループ、行政等の連携により統一した環境経営評価、環境経営向上支援を実施している団体です。

第三者評価会 出席者（敬称略）

加藤 高岡 前目 高	藤村 井野 田黒 橋	壽信行 公定 直史	男 政彦 夫 一	代表理事	株式会社産業環境総合研究所代表取締役 中村建設株式会社 株式会社高井製作所 株式会社日管 本田技研工業株式会社 TRC (Tuv Registered Consultant) Inc. 代表社員 中遠地域産業振興協議会事務局長	代表取締役 代表取締役 取締役工事長 南米相談役	社団法人静岡県産業環境センター 社団法人静岡県産業環境センター TMプラザ はままつ 会長 テュフラインランドアカデミーコンサルタント	参与 理事長
------------	------------	-----------	----------	------	---	-----------------------------------	--	-----------



第三者評価会の様子

第三者意見を受けて

「環境省 環境報告の促進方策に関する検討会」では第三者レビューの類型として

- ① 環境報告書の記載情報の正確性及び環境報告書作成基準の準拠性をレビューする「審査」タイプ
- ② 現状のように環境報告書作成基準が未整備であっても環境保全上の必要性等に照らして、独自の判断で環境報告書及び事業者の環境への取組状況をレビューする「評価・勧告」タイプ

に分類されており、カワイは今回②の「評価・勧告」タイプにて第三者として「静岡エコステージ研究会」のレビューを受けました。これらの評価・勧告を真摯に受け止め、今後の報告書開示に向け努力していきます。
なお検討を求められた5項目について、以下のように対応致しました。

項目番号	対応の方法
1	自己評価結果をわかりやすいように絵で表示し、3段階で評価しました。 次年度以降は計画に対する進捗状況がどの程度であるかも報告します。 又13頁に目標値達成の為に2003年度具体的計画を一部ですが表記しました。
2	教育の内容については7頁に組込みましたが詳細については次年度以降といたしました。
3	11頁に指摘事項に対する現在の取組状況を加えました
4	14頁において法の遵守状況についての表現を一部改め表示致しました。
5	次年度以降の報告書にて詳細を報告致します。

まとめ

持続可能性報告の観点に立ち今年度から社会性報告（社員との関係、お客様との関係、環境コミュニケーション）を組み込みました。今後は更に環境関連情報を充実させるとともに経済性・社会性の情報も幅広く掲載し“環境報告書”から“環境社会報告書”へと変遷を遂げられるよう努力してまいります。

また、環境報告書第三者意見をいただきました。これは報告の信頼性、客観性を高めるためではありますが、第三者としての評価・勧告を受けたことによりカワイの長所・短所が明確になったことが一番の効果と考えています。

最後に「カワイ環境報告書2002」にお寄せ戴いた皆様の貴重なご意見の一部と2003年版の対応状況を報告致します。

皆さまのご意見	2003年版での対応
○ 負荷の状況が環境負荷総計として記載されているが、Input/Output 等流れが明確でない	● 事業活動における環境影響収支として見開き頁(11,12頁)を利用しフローチャートにして表示致しました。
○ 製品サービスにおける、カワイの概念がいまひとつ不明	● 10頁に商品企画から廃棄までの各ステージにおけるカワイの環境配慮の考え方を図示致しました。
○ カワイの環境への取組の歴史は	● 6頁にカワイグループのあゆみとして表示しました。
○ 社会面や経済面を言及していないが	● 16頁以降に社会性報告を組み込みました。
○ 環境関連等の加入団体は、又寄付をしているNPOなどは	● 日本作業環境測定協会、静岡県環境保全協会、浜松市環境保全協議会、全国楽器協会、音楽電子事業協会、グリーン購入ネットワーク、エコステージ研究会、エコデザイン浜松などに参画しています。 また(財)オイスカなどに寄付行為で協賛しています。

KAWAI

 **株式会社 河合楽器製作所**

<http://www.kawai.co.jp/>

●お問合せ先
河合楽器 地球環境委員会
生産本部 環境推進室
〒430-8665 静岡県浜松市寺島町200番地
TEL 053-457-1251 FAX 053-457-1250
MAIL : kankyo@kawai.co.jp

R100



本環境報告書の用紙は、古紙配合率100%の再生紙で、白色度は80%。漂白のための塩素は使用せず、表面塗工および特殊コーティングも施していません。また、印刷インクには、「大豆油インク」を使用することにより石油系溶剤の使用量を減らし、VOC（揮発性有機化合物）が少なく、鉛・水銀・カドミウムなどの重金属類は使用していません。

2003.10発行